

博士前期課程

教育研究上の目的

人間科学(応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学)における専門的かつ応用的思考や人間科学に関する専門知識と技術を身につけ、現実的な問題解決能力を備えた専門職業人の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程人間科学研究領域では、人間科学(応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学)の専門知識と技術を身につけた専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としている。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしている。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要である。人間科学の専門職業人には社会の多様な要請に応じて、新しい価値観や方法論を提案し、提供する能力が求められている。

本課程では人間科学の分野に関する専門的な知識、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、学際的な視点から社会に新しい価値を提案し、それを実現できる能力を身につけさせることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士前期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、下記の能力を身につけていると判断され、修士(人間科学)の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
人間科学の専門性に基づく分析力、技術力、応用力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
人間科学における研究能力又は専門的職業を担うための能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
人間科学の分野に関する修士として高度な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士前期課程では、人間科学のそれぞれの研究分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標としている。その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととする。こうした教育目標のため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定する。
 - (2) 各専門分野における問題を的確に把握し解明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究(演習)」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的な学びを促す。
 - (3) 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論

文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行う。そして、理論的知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。

(4)TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

(1)研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。

(2)徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。

(3)計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

(1)人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を養成する。

2. 本領域の求める入学者

(1)人間及び人間社会に関する幅広い関心を有する人

(2)人間科学(心理学、健康科学、社会学等)に関連する基礎知識を学部卒業程度に備えた人

(3)福祉や他者支援に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価(選抜方法)

人間科学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、人間科学に関連した基礎知識や語学力を備え、人間科学に関する深い関心を有する学生を受け入れる。

博士後期課程

教育研究上の目的

人間科学(応用実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学)における高度な研究・教育を推進する専門的知識と技術を兼ね備えた自立した研究者、教育者または企業における企画・立案者などの高度な専門職業人の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本領域の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程人間科学研究領域では、人間学において高度な専門的知識と技術を身につけた研究者や高度専門職業人を育成することを、教育の最終の目標としている。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えている。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上にお手本がない困難な事態に直面していると言える。こうした状況においては、既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想される。その中で、人間学の研究者や高度専門職業人には、現状の閉塞感を打破して、新しい価値観や方法論を社会に提供できる正しい知識や専門的な能力が求められている。

本課程では博士号取得者に対して、当該分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力、及び主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周知し新しい世論形成の力となれる発信力を駆使して、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、人間科学専攻博士後期課程の学位授与の方針に掲げる能力に加え、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士(人間科学)の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
人間科学の専門性に基づく高度な分析力、技術力、応用力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
人間科学における研究能力又は専門的職業を担うための卓越した能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
人間科学の分野に関する博士として高度な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究領域博士後期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1)「人間科学特殊研究(演習)」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
 - (2)「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。
 - (3)研究課題に関する文献(英語を中心とする学術論文、外国語書物等)の講読により先行研究に学

び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。

- (4) 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- (5) 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- (6) 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
- (7) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

人間を身体や心理、社会という観点から計測し、実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を獲得する。そして、研究機関のみならず、教育機関・企業・行政における人間科学の専門家を育成する。

2. 本領域の求める入学者

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 人間科学(実験心理学、スポーツ健康科学、地域社会学)に関連する博士前期課程修了程度の高い学識を有する人
- (3) 社会の要請に応え、新たな価値を創造することに対して意欲を有する人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

人間科学研究領域博士後期課程の各分野では、入学試験を通じて、人間科学に対する深い関心を有し、人間科学に関する専門的思考・学識と高い技術を有する学生を受け入れる。